

日吉大社

日吉大社は2千年の歴史を謳っています。日本の歴史を文書に記録した最初のものと考えられている8世紀成立の、神話と伝説からなる年代記の古事記に、この神社が記述されています。日吉大社は比叡山の麓にあり、神道の山の神である山王を祀っています。日本全国に見られる3,800社以上の日吉神社、日枝神社、山王神社の総本宮です。時とともに他の神格も祀られるようになり、かつては広大な境内に108柱ものさまざまな神のための社がありました。日吉大社は、多くのお堂からなる近くの延暦寺の鎮守社にも当たります。

日吉大社の境内は樹木が生い茂りひっそりしています。境内を大宮川が流れ、小さな滝もあり、水の流れて外界の音はかき消されます。秋には、境内の3千本以上の楓の木から落ちる鮮やかな赤色の葉に辺り一面覆われます。

入り口には、日本最古の石橋と考えられている大宮橋があります。そばの2基の小さな橋とともに、重要文化財に指定されています。元の木造橋は、武将織田信長（1534–1582）がその支配に抵抗した政治的影響力のある組織を壊滅させようと、1571年に日吉大社と延暦寺を焼き払った際に、破壊されました。橋は17世紀後半に石造橋として架け直されました。

この神社は、頂上に比叡山を表す三角形がある、特徴的な山王鳥居でも有名です。比叡山には野生の猿も多く、猿は神の使いと考えられています。猿には悪を追い払う力があると信じられており、多くの建物で猿のモチーフを目にすることができます。

境内には社が集まった2つの主要なエリアがあります。西本宮（西側の本宮）と東本宮（東側の本宮）です。どちらの本殿も国宝に指定されています。両本殿の伝統的な檜皮屋根は50年ごとに葺き替える必要があります。どちらの本殿の回廊にも、400年以上前にまで遡る、守護者たる1対の狛犬の像が置かれています。西本宮の本殿のわきには、日吉大社の例祭である山王祭で使用される7基の神輿（持ち運びできる社）のうち1基を保管している部屋があります。